

講演 金属アルミニウムを負極に用いた二次電池の開発

化石燃料の消費による温室効果ガスの排出抑制のため電気自動車が近年注目されています。電気自動車の航続距離を決めているのは二次電池の容量ですが、現在のリチウムイオン電池では電気自動車をさらに普及させるためには容量が不足しています。そこで現在、様々な次世代型二次電池の研究開発が活発に行われており、その中で注目されている二次電池の一つが金属アルミニウムを用いた二次電池です。金属アルミニウムは多価カチオンとなるため、リチウムイオン電池に比べて理論的に高容量となります。本講演では、金属アルミニウムを用いた二次電池の現状と可能性について解説していただく予定です。

講師 知久 昌信 先生

(大阪府立大学 工学研究科 物質・化学系専攻 准教授)

知久先生は、二次電池やキャパシタ等の蓄電デバイスに関する新進気鋭の若手研究者の一人です。電気化学会・キャパシタ技術委員会の事務局も長年に渡って務められており、関連分野にてご活躍されています。今回、群馬大学にお招きして、ご専門の一つである次世代二次電池のアルミニウム系二次電池についてご講演いただくことになりました。皆様、奮ってご参加下さい。

2020年

1月16日 木

14:20~

講義1時間 質疑応答込みで最大1時間半

入場無料

申込不要

会場 総研棟506教室

対象 大学院生,学部生,教職員

主催 元素科学国際教育センター